

---

# 格付けの意義とR&Iの銀行格付けの視点 ～ 評定制度研究会～

---

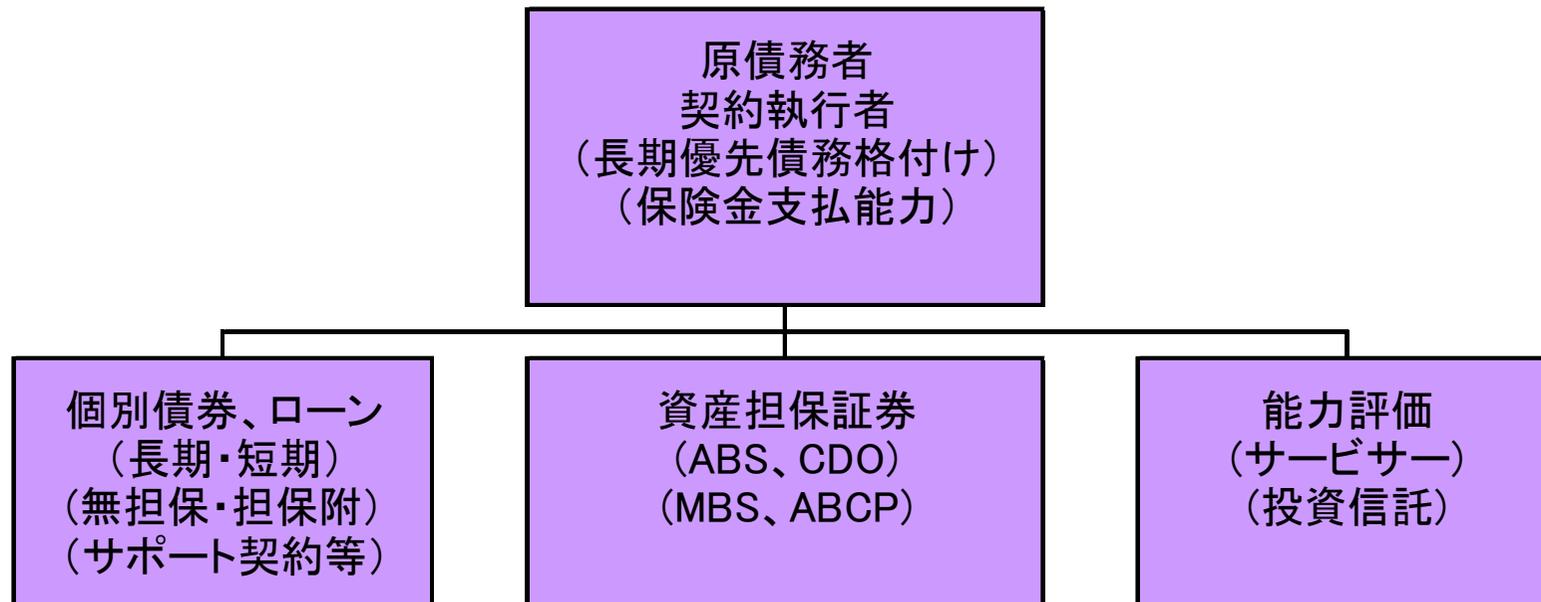
2005年2月9日(水)  
格付投資情報センター(R&I)  
チーフアナリスト  
細田 弘  
<http://www.r-i.co.jp>



---

# I .格付けの意義と市場における位置付け

# 格付けの種類



# 格付けの表すもの

- 長期優先債務格付け(発行体格付け)  
発行体が負う金融債務についての総合的な履行能力に対するR&Iの意見で原則としてすべての発行体に付与する。
- 長期個別債務格付け  
個々の債務(債券やローンなど)の支払いの確実性(信用力)についてのR&Iの意見。この格付けは、債務不履行となる可能性と回収の可能性(債務不履行時の損失の可能性)の両方が含まれる。契約の内容や回収の可能性などを反映し、発行体格付けを下回る、または上回ることがある。
- 短期格付け  
短期の金融債務が約定通り支払われる確実性についてのR&Iの意見。
- 保険金支払能力格付け  
保険会社の保険債務が約定通り支払われる確実性についてのR&Iの意見。個々の保険契約の支払いの程度に対する意見ではない。
- サービサー格付け  
事業債や証券化商品の格付けと異なり、サービサーの回収能力に重点を置きつつ事業継続性にも着目する。

## 格付け符号と定義(長期優先債務格付けと長期債)

符 号	定 義
AAA	債務履行の確実性は最も高く、多くの優れた要素がある。
AA	債務履行の確実性は極めて高く、優れた要素がある。
A	債務履行の確実性は高く、部分的に優れた要素がある。
BBB	債務履行の確実性は十分であるが、将来環境が大きく変化した場合、注意すべき要素がある。
BB	債務履行の確実性は当面問題ないが、将来環境が変化した場合、十分注意すべき要素がある。
B	債務履行の確実性に問題があり、絶えず注意すべき要素がある。
CCC	債務不履行に陥っているか、またはその懸念が強い。 債務不履行に陥った債権は回収が十分見込めない可能性がある。
CC	債務不履行に陥っているか、またはその懸念が極めて強い。 債務不履行に陥った債権は回収がある程度しか見込めない。
C	債務不履行に陥っており、債権の回収もほとんど見込めない。

「プラス(+)、マイナス(-)表示」

AA格からCCC格については、上位格に近いものにプラス、下位格に近いものにマイナス表示をすることがあります。なお、CC格には、契約内容等による債権者の地位や回収の可能性を反映して個別債券格付けを長期優先債務格付けと異なる符号にする場合、プラス、マイナスを付けることがあります。

# 格付けの役割

- 格付け会社の存在意義

- ①「情報の非対象性」の是正

- ②「情報生産コスト」の軽減

- 株価格付けとの違い

信用格付けは金融債務の履行能力を重視した信用リスクに対する評価情報であり、キャピタルゲインを重視する株式投資家とは評価の視点が異なる。

- 中長期的な視点を重視

格付け評価では、今後3~5年を展望した中長期的な視点を重視する。短期的な景気循環で格付けが大きく振れることは望ましいことではなく、金融債務の履行能力に関する構造的な変化を見極め、適切に格付けに反映していくことが重要。

# R&I格付けとデフォルトの関係

累積平均広義デフォルト率(%)

	1年後	2年後	3年後	4年後	5年後	6年後	7年後	8年後	9年後	10年後
AAA	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.17	0.36	0.55	0.76
AA	0.00	0.00	0.06	0.12	0.18	0.38	0.60	0.84	1.20	1.39
A	0.04	0.13	0.32	0.58	0.93	1.26	1.55	1.90	2.30	2.61
BBB	0.13	0.40	0.74	1.13	1.53	2.01	2.48	2.90	3.27	3.68
BB	1.90	3.65	5.25	6.41	7.55	8.80	10.34	11.77	13.13	14.11
B 以下	7.89	12.36	15.96	17.84	19.19	20.62	22.83	25.05	28.11	30.47
BBB 以上	0.07	0.23	0.46	0.74	1.05	1.41	1.77	2.12	2.49	2.82
BB 以下	3.00	5.25	7.21	8.51	9.69	10.98	12.65	14.26	16.00	17.31
全体	0.28	0.59	0.94	1.28	1.65	2.07	2.51	2.95	3.41	3.82

- 1978年以降の実績を基に日本企業を母集団とする広義デフォルト率を公表。
- R&Iのウェブサイト(<http://www.r-i.co.jp>)にて詳細なバックデータを公開。

# 広義デフォルトの定義

## <広義デフォルトの定義>

### (1) 社債のデフォルト

### (2) 法的破綻

- ① 裁判所に破産を申請する
- ② 裁判所に会社更生法の適用を申請する
- ③ 裁判所に民事再生法(2000年4月以前は和議法)の適用を申請する
- ④ 裁判所に特別清算の開始を申請する
- ⑤ 裁判所に商法による会社整理の適用を申請する
- ⑥ 1回目不渡り後に任意整理する
- ⑦ 2回目不渡りを出し、銀行取引停止処分を受ける
- ⑧ 不渡りは出さず内整理する
- ⑨ 破綻処理としての国有化
- ⑩ 自主廃業

### (3) 債権放棄、債務の株式化

(4) 救済合併あるいは主たる営業資産の譲渡(資産価値がない場合)

(5) 債務超過回避を目的とした資本注入

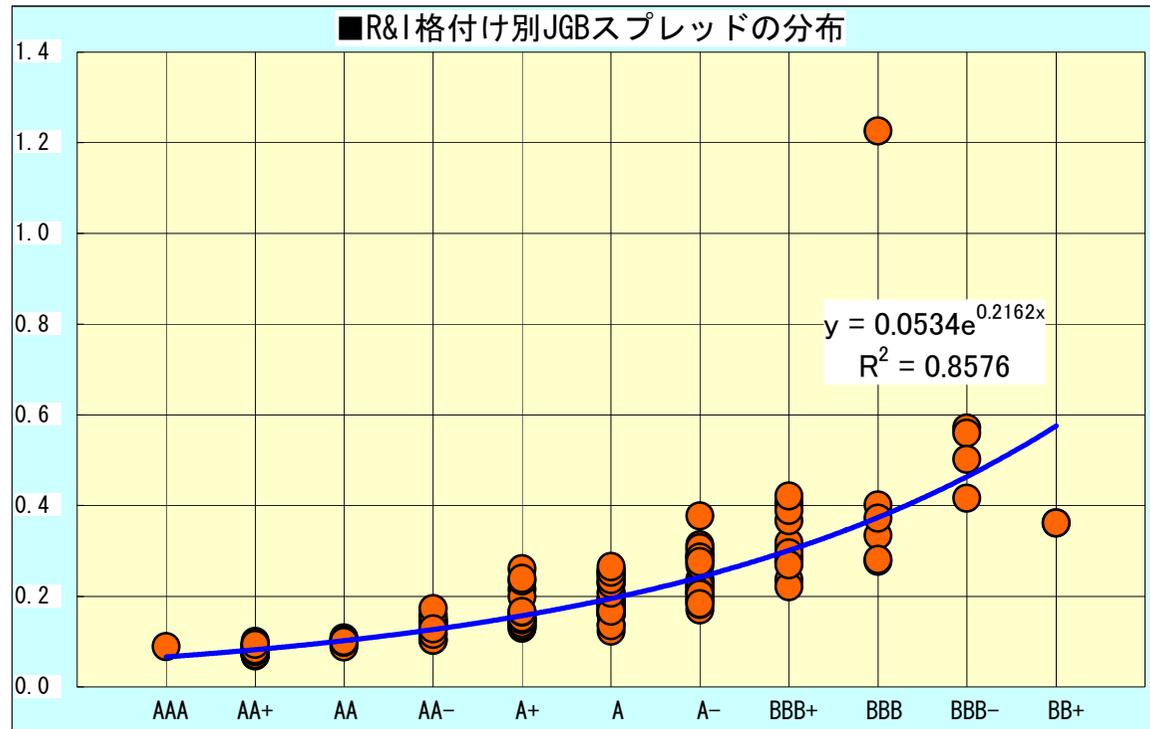
(6) 債務超過(その後、倒産回避のために金融支援を要請した場合)

# 広義デフォルト率の特徴

- 格付け対象がローンなどにも広がっており、債券のデフォルトのみを対象としたのではリスク管理の指標として不十分。
- R&Iの広義デフォルト率は実質的な支払不能状態に陥ったことによって第三者に経済的損失を負わせる状態を列挙。
- 「債権放棄」「債務の株式化」などを含みバーゼルⅡの考え方にも適合的。
- 格付け消滅後もデフォルト事例を追跡、反映。

# 格付けと流通市場(1)

Credit Express 債券・格付けデータ



注) 残存5年、2005年1月31日現在

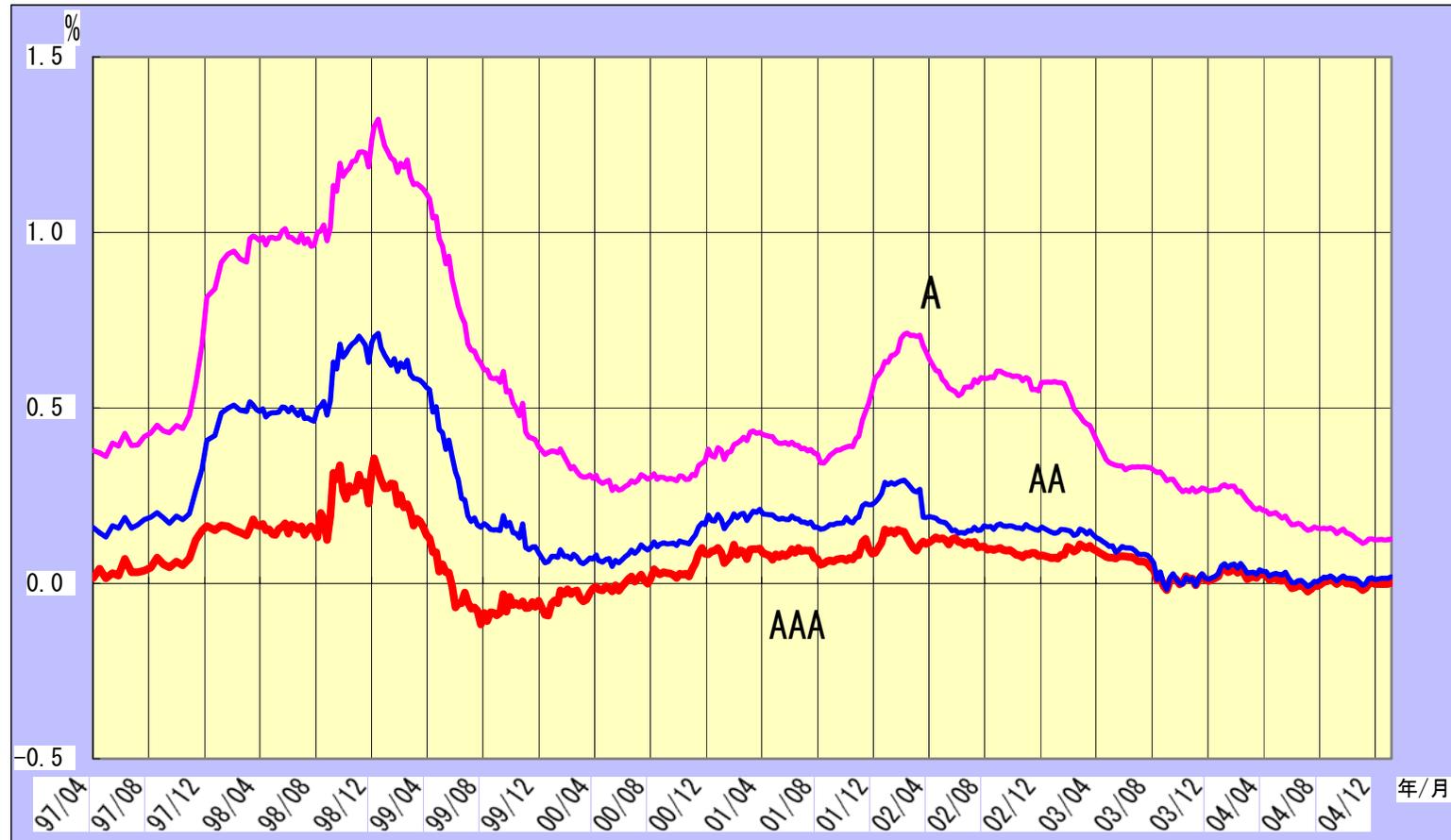
## グラフの見方

R & I の格付けが債券の流通価格にどの程度反映されているかを検証した。日本証券業協会が日々公表している店頭基準気配をベースにして、銘柄ごとに残存期間が同じである国債との利回り格差を、JGBスプレッドとして計算し、格付けとの相関関係をみた。残存5年の社債を対象に、それぞれの銘柄の格付けAAAを1、AA+を2、AAを3・・・というように数値に置き換えて説明変数x、スプレッドを説明変数yとし最小二乗法で推計した。R<sup>2</sup>はモデルの説明力をあらわす。1に近いほど説明力があり、グラフをみると、R & I 格付けと国債スプレッドとの間に強い相関関係があることがわかる。

# 格付けと流通市場(2)

Credit Express 債券・格付けデータ

■R&Iの格付け別スワップスプレッドの推移 (AAA~A)

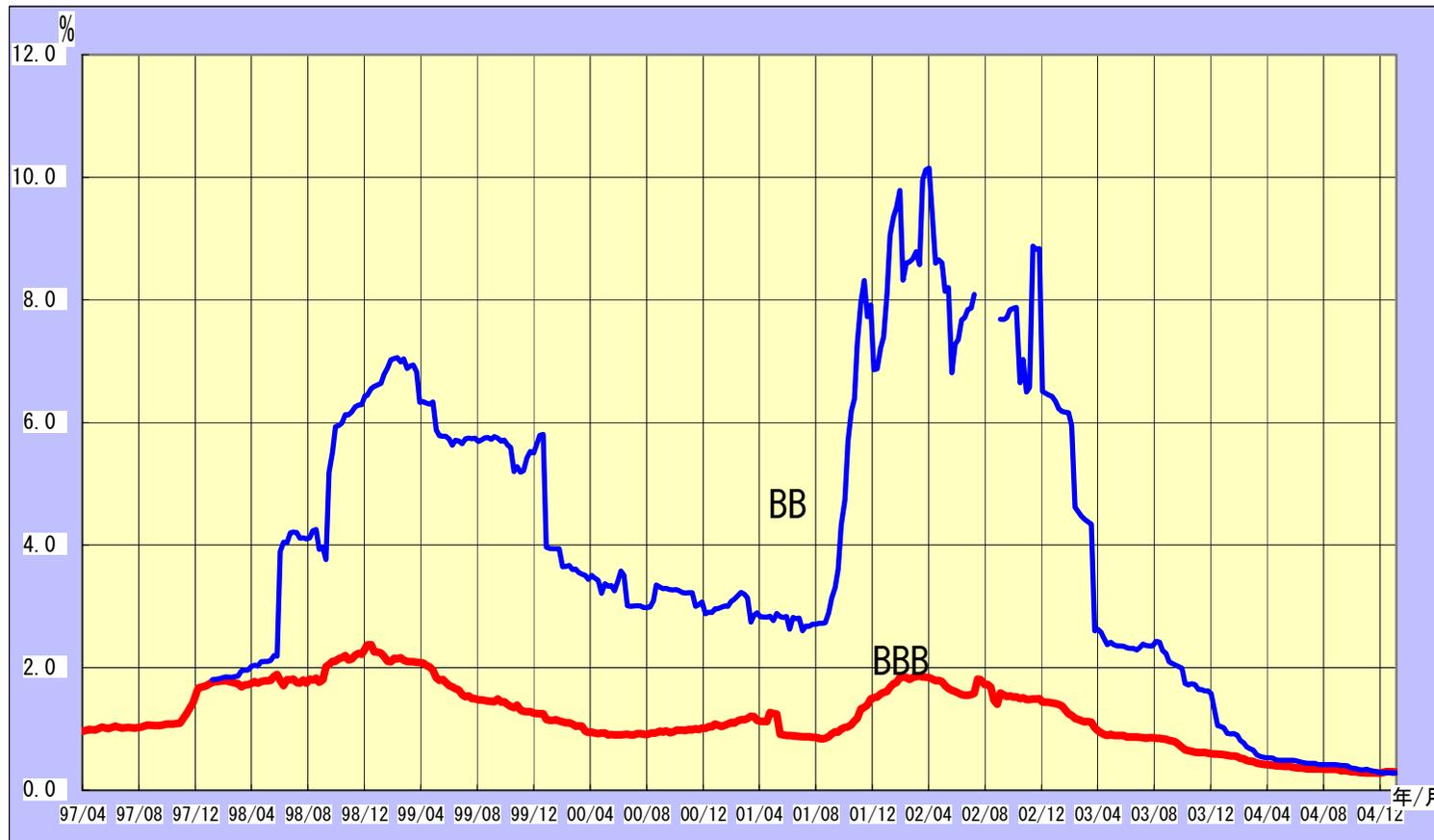


注) 格付けはR&I

# 格付けと流通市場(3)

Credit Express 債券・格付けデータ

■R&Iの格付け別スワッププレッドの推移 (BBB~BB)

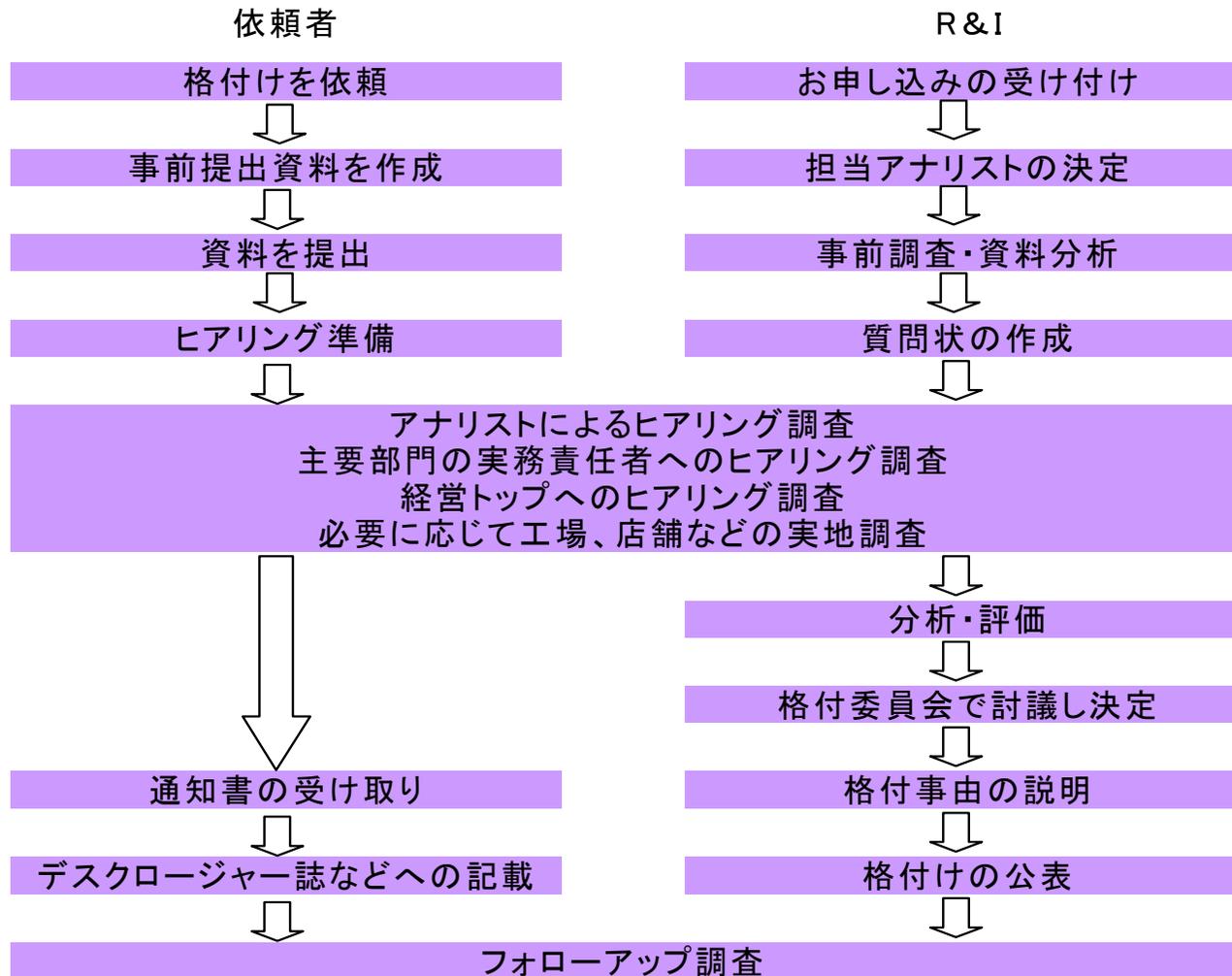


注) 格付けはR&I

# バーゼルⅡと外部格付け

- 銀行の自己資本比率規制の手法の一部に外部格付けを組み入れることは、銀行のエクスポージャーに対する信用リスク評価の客観性確保および精緻化に資するものと考ええる。
- 信用格付けは、投資家に対し、債券、ローンその他の金融商品の信用リスクに関する評価情報を提供し、投資判断に利用して貰うことが、本来の役割であり、銀行の自己資本比率規制の一部として使われることは、信用リスクの評価という側面では共通しても、その役割、機能が大きく異なることに留意すべき。
- 格付けを自己資本比率規制の手段として使う場合にも、こうした格付けの本来的な役割を損なわないよう十分配慮することが必要である。
- 詳細については、R&Iのウェブサイト(<http://www.r-i.co.jp>)をご参照。

# 格付けの実務



---

## Ⅱ.銀行格付けの視点と評価のポイント

# バブル崩壊以降の大手銀行の格付け推移

## 2003年度以降、個別要因で格上げになる銀行も

■R&Iの格付け推移(大手銀行)

	92/3	93/3	94/3	95/3	96/3	97/3	98/3	99/3	00/3	01/3	02/3	03/3	04/3	05/1		
1																
2		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	AA-	AA-	AA-	(A)	三菱東京FG	
3	三菱銀	AAA	AA+	AA+	AA+	AA+										
4	東京銀	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	AA+	AA+	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	(A+)	東京三菱銀	
5	三菱信	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A+	A+	A+	(A+)	三菱信	
6	住友銀	AAA	AA+	AA+	AA+	AA+	AA+	AA	AA-	AA-	AA-					
7	太陽神戸三井銀	AA	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	A	A-	A	AA-	A+	A	A	三井住友銀	
8		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A-	みずほFG
9		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A+	A	A-	A-	A-	みずほHD	
10	第一勧銀	AA+	AA+	AA	AA	AA	AA	AA-	A	(A+)	A+	A	A-	A-	A	みずほ銀
11	富士銀	AA+	AA	AA	AA	AA	AA	AA-	A	(A+)	A+	A				
12	興銀	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	AA	A+	(A+)	A+	A	A-	A-	A	みずほコーポレート銀
13		N.R.	N.R.	N.R.	(第一勧業富士信→みずほ信)				A	(A+)	A+	A				
14	安田信	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A	A-	BBB	BBB	(A-)	A-	A-	A-	A-	A	みずほ信
15		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A	A	A	A	資産管理サービス信
16	三和銀	AAA	AA+	AA+	AA+	AA+	AA+	AA	AA-	(AA-)	A+					
17	東海銀	AA	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	A+	A	(A)	A+	A	A-	A-	(A)	UFJ銀
18	住友信	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	AA-	A+	A-	A-	A-	A-	A-	A-	A	住友信
19	長銀	AA	AA-	AA-	A+	A+	A	BBB+	BB-	(BBB-)	BBB	BBB	BBB	BBB+	A-	新生銀
20	日債銀	AA-	A	A	A	A-	BBB+	BBB-	BB-	(BB-)	BBB	BBB	BBB	BBB+	BBB+	あおぞら銀
21		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	BBB-	BBB	りそなHD
22	協和埼玉銀	AA-	A+	A+	A+	A+	A+	A+	A	(A)	A	BBB-	BBB-	BBB	BBB+	りそな銀
23	大和銀	AA	AA	AA	AA	A	A	BBB+	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	BBB	BBB+	
24		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A	A	A	日証金信
25		N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A	A	A+	A+	オリックス信

(注1)98/3以前はR&Iの前身である旧JBRI、旧NISの格付けのうちいずれか低い方を記載。N.R.は格付けなし。

(注2) ( )はレーティング・モニター指定。レーティング・モニターは合併、買収、資本参加など、経営に重大な影響を与える事象の発生や、さらには事業環境の無視できない変化などが発生する場合に、臨時に格付けの見直しを実施する制度。

# 地方銀行の格付けは大手銀行に比べ安定している

■R&Iの格付け推移(地域金融機関)

	92/3	93/3	94/3	95/3	96/3	97/3	98/3	99/3	00/3	01/3	02/3	03/3	04/3	05/1	
1 静岡銀	AA	静岡銀													
2 七十七銀	AA	AA-	AA-	AA-	AA-	七十七銀									
3 中国銀	AA	AA	N.R.	AA-	AA-	AA-	中国銀								
4 八十二銀	AA	AA-	AA-	A+	A+	八十二銀									
5 群馬銀	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	A+	A+	A+	群馬銀
6 福岡銀	AA	AA	AA	AA	AA	AA	AA-	AA-	AA-	A+	A+	A+	A+	A+	福岡銀
7 千葉銀	AA	AA	AA	AA-	N.R.	N.R.	N.R.	N.R.	A+	A+	A+	A+	A+	A+	千葉銀
8 常陽銀	AA	AA-	AA-	N.R.	A+	A+	A+	A+	常陽銀						
9 山梨銀	N.R.	A+	A+	A+	A+	山梨銀									
10 百五銀	N.R.	A+	A+	A+	百五銀										
11 京都銀	N.R.	A+	A+	A+	A+	A+	A+	京都銀							
12 肥後銀	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	A+	肥後銀							
13 鹿児島銀	N.R.	A+	鹿児島銀												
14 山陰合同銀	A+	山陰合同銀													
15 岩手銀	A+	岩手銀													
16 阿波銀	N.R.	A+	A+	A+	A+	A+	阿波銀								
17 滋賀銀	A+	A	A	A	滋賀銀										
18 横浜銀	AA	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	A+	A	A	A	A	A	A	A	横浜銀
19 十六銀	A+	A	A	A	A	A	A	A	十六銀						
20	N.R.	A	A	A	A	札幌北洋HD									
21 北洋銀	N.R.	A	A	A	A	北洋銀									
22 札幌銀	N.R.	A-	A-	A-	A-	札幌銀									
23 名古屋銀	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A-	A-	A-	名古屋銀
24 広島銀	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	AA-	A	A	A	A	A	A-	A-	A-	広島銀
25 三重銀	N.R.	A-	A-	A-	A-	A-	A-	三重銀							
26 香川銀	N.R.	A-	A-	A-	A-	A-	A-	香川銀							
27 鳥取銀	N.R.	BBB+	鳥取銀												
28 佐賀銀	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A	A-	A-	BBB+	BBB+	佐賀銀
29 関西銀	N.R.	BBB	BBB	BBB+	関西アーバン銀										
30 泉州銀	N.R.	BBB+	泉州銀												
31 トマト銀	N.R.	BBB-	BBB	トマト銀											
32 都民銀	A+	A+	A+	A	A	A	BBB+	BBB	BBB	BBB	BBB	BBB-	BBB-	BBB-	都民銀
33 北陸銀	AA-	A+	A+	A+	A+	A	BBB	BB+	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	BBB-	北陸銀
34 全信連	N.R.	AA	AA	AA	AA	信金中金									
35 浜松信金	N.R.	A	A	A	浜松信金										
36 瀬戸信金	N.R.	A-	瀬戸信金												
37 東海労金	N.R.	A-	A-	A	東海労金										
38 近畿労金	N.R.	A	近畿労金												
39 中央労金	N.R.	A	中央労金												
40 兵庫県信連	N.R.	A+	兵庫県信連												
41 大阪府信連	N.R.	A	大阪府信連												

(注1) 98/3以前はR&Iの前身である旧JBRI、旧NISの格付けのうちいずれか低い方を記載。N.R.は格付けなし。

(注2) ( )はレーティング・モニター指定。レーティング・モニターは合併、買収、資本参加など、経営に重大な影響を与える事象の発生や、さらには事業環境の無視できない変化が発生する場合に、臨時に格付けの見直しを実施する制度。

# 銀行格付けの視点—信用力評価の要素

## I. 銀行を取り巻く経済状況及び営業環境

- ① 所在国・地域の経済状況がもたらす収益機会とリスク
- ② 経済・金融システムにおける収益機会とリスク
- ③ 業界構造

## II. 銀行に対する規制・監督(公的サポート)

- ① 規制と規制緩和—方向性と変化のスピード
- ② 金融システムの健全性維持向けての監督当局の意思と能力
- ③ セーフティーネットの有効性と透明性

## III. 個別銀行の事業基盤と財務基盤

- ① 市場での地位
- ② 金融サービスの質と競争力
- ③ 各種のリスクとリスク管理体制
- ④ 自己資本
- ⑤ 収益力
- ⑥ 経営の質

I. が銀行の信用力の上限を規定。経済力が強く、金融システムが安定している場合は、III が分析の中心に。金融システムが不安定な場合は II. が重要な要素に。

# 銀行を取り巻く経済状況及び営業環境

- 短期的な事業環境は改善  
負の遺産処理の進捗に加え、経済環境も好転
- 中長期的な見通しは楽観できず
  - ①事業法人セクターは全体として資金余剰
  - ②高齢化を伴う人口の減少
    - 従来型のビジネスモデルは限界に
    - 「金融サービス業」への転換が課題に
- 地域金融機関の評価では地域経済の状況と地域市場における地位を重視
  - 経済規模、産業構造、就業構造、所得、人口変動率、倒産発生率、地価変動率などの現状と方向性
  - 市場地位は、表面的なシェアだけでなく、地域での存在感、競合状況などを勘案
  - 営業地域が狭い範囲に集中している場合は、地域集中リスクを格付けに反映

# 公的サポートと銀行格付け

- 日本の金融システムのセーフティーネットは極めて強固
  - ・決済性預金の全額保護
  - ・預金保険法第102条による金融危機対応
  - ・「金融機能の強化のための特別措置法」では、システミックリスクの存在を要件とせず
- 金融行政の変化
  - ・金融改革プログラム：民主導の金融サービス立国を志向
  - ・危機封じ込めから競争促進による金融機能強化へ
- 公的サポートの格付け評価への反映
  - ・大手銀行中心にスタンドアローンの信用力から公的サポートでノッチアップされている状況
  - ・預金保険法第102条の適用対象となる可能性が高いメガバンクや大規模地銀の格付け評価では、BBB-がフロアに
- 格付け評価における個別銀行事業・財務基盤評価の重要性復活へ
  - ・金融システム安定化の進行
    - 財務基盤の回復で自前の信用力を公的サポートに置き換える過程に

# 各種のリスクとリスク管理体制

- 信用リスク、市場リスク、流動性リスクなどの質と量と今後の見通し
- 上記をもたらした業務運営やリスク管理体制の構造的な問題
- 過去の金融機関の破綻は、無理な業務運営の結果、特定分野にリスクが集中することが原因に
  - ①リスクの分散が図られていること
  - ②リスクの評価・管理の原則が確立・遵守されていること
  - ③経営陣がリスクの状況を認識し、コントロールしていること
- 金融機関自身が、どのように各種リスクを認識、計測し、自己資本を割り当てているかなど銀行自身によるリスク管理体制を評価
- R&I独自のシナリオに基づくストレス下でのリスク耐久力を評価

# リスク評価の一例 信用リスク

- 以下の点などに注目し、いくつかのシナリオを基に、資産の劣化リスクを評価
  - ①貸出ポートフォリオの構成－業種別、地域別、企業規模別、約定期間別、担保種類別など。
  - ②業種集中、大口集中(グループ、個社)など  
与信集中度。大口与信先への対応方針。
  - ③内部格付け別の与信分布と貸出スプレッド、格付け遷移状況と損失率。
  - ④資産査定と償却・引当の状況とその妥当性。
  - ⑤過去の与信関係費用の要因分析。
  - ⑥上記①から⑤の分析と営業基盤の評価を考慮し、今後の与信関係費用発生の見通しを判断する。

# 自己資本の評価

- 自己資本の分析は単純にその水準を見るのではなく、金融機関の抱える様々なリスクとの対比で評価。  
⇒時価ベースでの自己資本の価値を探ると共に、さまざまなシナリオのもとで自己資本の価値がどのように変化するかを推定。
- 分子である自己資本の構成要素については、資本としての安定性や資本性の強弱によって評価を変える。
- 自己資本の特徴
  - ①期限や返済の義務がない
  - ②配当支払の義務がない
  - ③支払い不能に陥った場合、債権者に対して劣後する自己資本の特徴を十分備えていない場合、債務に近いとみなされ格付け判断上、自己資本としての効果は割り引かれる。
- 規制・監督当局の自己資本評価の基準とR&Iの自己資本評価の基準は一致しないが、自己資本比率規制は銀行経営者の行動に大きな影響を与え、行政措置の発動基準になるので、格付け上も重要。

# ハイブリッド証券への依存度が高い大手銀行の自己資本 資本性を個別に評価

## ■事業会社が発行するハイブリッド証券の例と分類、資本性の目安

	資本性の目安	ハイブリッド証券の例
	0	普通社債
クラス1	10	超長期劣後債/優先株(5年後のコールオプションつき)。利息/配当累積して繰り延べ可能
クラス2	30	永久劣後債/優先株(5年後のコールオプションつき)。利息/配当累積して繰り延べ可能
クラス3	50	永久劣後債/優先株(コールなし)。利息/配当累積して繰り延べ可能
クラス4	70	優先株(コールなし)。配当非累積で繰り延べ可能
クラス5	90	3年以内強制転換権付優先株。配当非累積で繰り延べ可能
	100	普通株式

## ■金融機関の場合の調整(原則)

買入消却を前提とした公的資金優先株は、同種の民間優先株より資本性を1ランク低く見る。  
 買入消却を前提とした公的資金優先株は、強制転換期限まで3年未満のものは3年以上の公的資金優先株より資本性を1ランク低く見る。  
 利息/配当の繰り延べが任意のタイプの資本性は、強制的に停止するものに比べ資本性が劣る。  
 実質的なTier I の充実度を重視する。

上記は、あくまで目安であり、発行者の状況などにより資本性の評価は異なる。

# 収益力

- 多種多様なリスクを吸収できるだけの厚みがあるか
- コアとなる部門の利益を高い水準で安定的に維持できるか

→リスク調整後利益の水準、安定性、傾向

- ①一時的要因を除いたコアの償却前利益の水準とROA
- ②リスク調整後総資産利益率
- ③非金利収入／コア業務粗利益
- ④事業部門別の収益構成
- ⑤収益源の分散度合い
- ⑥配当性向

# 本業部分の収益性を重視

- 事業部門別の粗利益、経費、リスク調整後利益
- 地域別に特徴のある銀行については、地域別の把握も
- 主要事業部門のそれぞれについて、事業リスクを評価
- 邦銀の問題点
  - 市場・ALM部門への依存度が高い
  - 本業部分では個人部門の収益寄与度が低く、収益源の分散が進んでいない。
  - 銀行セクター全体として事業法人向け貸し出しの縮小が必至であるにもかかわらず、量的拡大を前提に業務運営

# 経営の質

- トップインタビューを重視
- 経営のスピード、リーダーシップが非常に重要に。
- 最近格上げした新生銀行、りそな銀行、関西アーバン銀行はトップのリーダーシップを評価
- 問題点を明確に認識し、実行可能な合理的な計画を策定・実行しているか
  - R&Iは、特定の経営戦略を推奨することはない。経営者の現状認識、今後の経営の方向性、実行力を信用リスクの視点から評価
- 経営陣を支える組織、人材、経営陣が入手している情報の質と量なども経営力評価の重要な要素

# 主要な評価ポイント

信用リスク	R&Iが補正した債務者区分別与信額 上記に対応する引当金の水準 大口経営支援先に対する追加支援コスト ストレスシナリオに基づく資産劣化コスト 資産劣化コスト/(期間損益+実質自己資本)	自己資本	自己資本の構成と構成要素の資本性の強弱 繰延税金資産の回収可能性 上記を加味した実質自己資本と各種リスクの対比 規制自己資本比率の現状と見通し 内部留保による自己資本増強の見通し 資本市場からの自己資本調達能力
流動性リスク	運用・調達のバランス 資金調達の構成と各調達手段の安定性 資産の流動性 流動性管理の方針と計画	収益力	一時的要因を除いたコアの償却前利益の水準とROA リスク調整後総資産利益率(RAROA) 非金利収入/コア業務粗利益
市場リスク	資産・負債構造と金利・為替・株価変動リスク 市場リスク管理の方針と報告体制 フロント・ミドル・バックの相互牽制体制		経費/コア業務粗利益 事業部門別の収益構成 収益源の分散度合い

# 大手銀行グループの定量指標～公表データによる

■大手銀行グループの定量指標(連結ベース)

単位:億円, %

	MTFG			SMFG			みずほFG			UFJ		
	04/09	04/03	03/03	04/09	04/03	03/03	04/09	04/03	03/03	04/09	04/03	03/03
1 連結粗利益(信託勘定償却前)	8,883	17,736	17,555	10,200	20,695	21,840	9,627	21,184	22,528	8,041	16,253	16,135
2 非金利収入比率	41.13%	42.78%	37.24%	40.02%	37.41%	31.68%	41.85%	40.85%	38.67%	43.95%	45.14%	38.69%
3 営業経費	5,262	10,477	10,488	4,236	8,665	8,892	5,631	11,850	12,376	3,614	7,730	7,751
4 修正OHR	61.15%	58.25%	62.16%	42.65%	42.34%	43.41%	58.00%	56.20%	60.42%	49.24%	51.40%	54.72%
5 コア償却前利益	3,418	7,544	6,349	5,826	11,959	11,648	4,098	8,791	8,073	3,746	7,388	6,417
6 同ROA(中間期は年率換算)	0.61%	0.72%	0.62%	1.15%	1.16%	1.10%	0.58%	0.64%	0.56%	0.89%	0.89%	0.78%
7 リスク管理債権(銀信合算)	15,724	14,893	26,106	28,687	32,980	57,707	22,580	32,047	48,115	42,373	41,252	43,530
8 貸倒引当金等	8,079	8,396	13,067	12,224	14,225	22,435	13,646	18,560	22,250	23,783	21,301	16,813
9 ネットリスク管理債権	7,645	6,497	13,039	16,463	18,755	35,272	8,934	13,488	25,865	18,590	19,951	26,716
10 リスク管理債権比率	3.28%	3.15%	5.46%	5.18%	5.95%	9.45%	3.49%	4.80%	6.88%	10.49%	9.55%	9.64%
11 ネットリスク管理債権比率	1.62%	1.40%	2.80%	3.04%	3.48%	5.99%	1.41%	2.08%	3.82%	4.89%	4.86%	6.15%
12 Tier I	40,259	38,594	31,286	36,456	35,716	32,559	40,441	39,411	34,954	22,039	21,752	25,604
13 繰延税金資産	6,540	6,555	13,019	16,964	16,664	19,122	12,085	13,330	21,260	12,060	13,958	15,223
14 リスクアセット	544,571	539,968	550,496	605,391	592,040	591,669	672,394	684,242	718,236	432,077	461,860	463,283
15 Tier I 比率	7.39%	7.15%	5.68%	6.02%	6.03%	5.50%	6.01%	5.76%	4.87%	5.10%	4.71%	5.53%
16 繰延税金資産/Tier I	16.24%	16.98%	41.61%	46.53%	46.66%	58.73%	29.88%	33.82%	60.82%	54.72%	64.17%	59.46%
17 ネットリスク管理債権/Tier I	18.99%	16.84%	41.68%	45.16%	52.51%	108.33%	22.09%	34.22%	74.00%	84.35%	91.72%	104.34%

(注1)非金利収入比率=(連結粗利益-資金利益-国債等債券関係損益)/(連結粗利益-国債等債券関係損益)

(注2)修正OHR=営業経費/(連結粗利益-国債等債券関係損益)

(注3)コア償却前利益=連結粗利益-営業経費-国債等債券関係損益+持分法損益

(注4)同ROA=コア償却前利益/総資産期首期末平均(総資産には元本補填契約のある信託を加えた)

(注5)国債等債券関係損益はMTFG以外は単体の数字

(注6)貸倒引当金等=貸倒引当金+特定債務者支援引当金+債権売却損失引当金+信託勘定留保金+同債権償却準備金

[決算短信等によりR&I作成]

# 公表データから見たリスク耐久力～地銀を例に

■地銀113行とR&I格付け先のリスク考慮後中核自己資本比率の分布 単位:行

リスク額考慮後 中核自己資本比率	地銀113行の分布			R&I格付け先の分布		
	03/3	04/3	増減行数	03/3	04/3	増減行数
～0%	27	16	-11	3	2	-1
0～1%	6	8	2	0	0	0
1～2%	7	9	2	2	1	-1
2～4%	23	17	-6	7	3	-4
4～6%	22	25	3	8	10	2
6～8%	21	26	5	7	10	3
8～10%	5	9	4	3	4	1
10%～	2	3	1	2	2	0

\* 中核自己資本＝Tier I－公的資金－繰延税金資産

\* 信用リスク＝金融再生法開示債権－引当金－担保・保証(1－各県の地価下落率×3)

\* 市場リスク＝株式時価×20%＋債券時価×1%[有価証券含み益から左記を控除しマイナスの場合、減算]

\* リスク考慮後中核自己資本＝中核自己資本－信用リスク－市場リスク＋コア業務純益×3×0.6

[決算短信よりR&I作成]

- ・公表データから地銀113行の自己資本を分析。今後3年程度のリスクと収益を考慮し、  
①金融再生法開示債権の非保全部分が損失になると仮定、②各県の地価下落率相当分、担保価値が下落すると想定。
- ・上記は、公表データによる大まかな比較であり格付けにあたっては、リスクと自己資本の内訳の双方を、よりきめ細かく評価している。

# 協同組織金融機関格付けの留意点

- 基本的な考え方は銀行と同じ
- 協同組織金融機関の事業特性を踏まえる
  - 協同組織としての理念と金融機関としての要請の調和
  - 例えば、信用金庫の場合、不良債権比率は比較的高いが顧客との密接なリレーションシップで損失発生率を抑えている
- 小規模金融機関ほど定性的要素の評価が重要
- 業態のセーフティーネットや中央機関の指導力なども重要な要素

■ R&Iの協同組織金融機関の格付け

浜松信用金庫	A	東海労働金庫	A
瀬戸信用金庫	A-	近畿労働金庫	A
兵庫県信用農業協同組合連合会	A+	中央労働金庫	A
大阪府信用農業共同組合連合会	A		

# 総合評価

- 各評価項目を個別にウエート付けして合算するような評価手法は採らない
- いくつかのシナリオを想定し、各要素がどのように変化し、銀行の金融債務の履行能力に影響を与えるかを総合的に判断
- 一定のモデルに数値を入れれば格付けが決まるのではなく、格付け委員会で徹底的に議論して決定する